

松阪中央総合病院 活動計画

～地域緩和ケア課題解決に向けて～

①地域の課題

1 地域からのフィードバックをどうするか？

退院後の患者の経過や在宅での療養方法を知る機会が少ない。

2 顔の見える関係の形成

年1回の研修会で関係形成ができるか…。

地域により研修会の参加が困難な事業所への配慮(遠方地域等)。

3 院内での緩和ケア介入患者の早期からの抽出

潜在的な緩和ケアニーズがある患者がいる。

早期介入を行うことで患者・家族の不安や地域支援者へのつながりも円滑になるのでは…。

②どんな地域を目指すのか

患者さんにも、ご家族にも、医療スタッフにもやさしい医療が
提供できる地域を目指す！

目指す地域を実現するために取り組むべきこと～地域の課題から～

1 地域からのフィードバックをどうするか？

- ・ 退院後訪問：在宅医へ移行した患者様を訪問して情報を共有していく。
- ・ 家まで行けなければ電話等にて情報収集(地域によりテレビ電話の活用)。→この情報を地域支援者と情報共有。
- ・ 在宅移行患者カンファレンス：医療者間で話し合っ、在宅の状態を知ること
とで今後の診療に役立てる。
- ・ デスカンファレンス実施：医療機関、地域支援者が合同で実施。

2 顔の見える関係の形成

- ・ 地域の在宅医療関係者との研修会実施。

→開催件数増加(現在年1回を年2回に)。

- ・ 研修会実施時のオンライン参加等、遠方参加希望者への配慮。

- ・ 多職種連携に調剤薬局の薬剤師の参加。薬薬連携。

→これまで参加が少なく薬剤師との連携方法等の検討。

3 院内での緩和ケア介入患者の早期からの抽出

⇒外来がん患者に対してのアプローチ

- ・ 外来ラウンド 外来スタッフからの情報収集
- ・ 化学療法室への訪問 化学療法室のスタッフをチームに取り込む
- ・ 外来スタッフへの啓蒙 外来スタッフの研修会への参加依頼